

2	法定	自主
	○	

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 26 日

神奈川県知事 殿

提出者

住 所 藤沢市朝日町1番地の1

氏 名 藤沢市長 鈴木 恒夫

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0466-25-1111



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大清水浄化センター	自主管理事業登録番号	(1136)
事業場の所在地	藤沢市大鋸1500番地	TEL(連絡先):	0466-81-8899
計画期間	令和 6 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日(1 年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	F-電気・ガス・熱供給・水道業 (具体的には) 下水道法第2条第6号に規定する終末処理場		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載してください。) 総処理水量 21,757,580 m ³ /年(令和5年度実績)		
③ 従業員数	37 人		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入	大清水浄化センターにおいて、下水の処理の過程で発生する汚泥は脱水した後、市内の辻堂浄化センターに搬送し、安定化及び減容化を目的として焼却処理を行っている。 また、脱水した汚泥の一部は、市外に搬送し再利用(建設骨材化、セメント原料化、コンポスト化)を図っている。		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

下水道施設課長 - 大清水浄化センター長 - 業務担当者(廃棄物管理責任者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(令和5年度)実績】		
	産業廃棄物の種類数	2 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。
	① 排出量	184,136.4 t	
	(これまでに実施した取組)		
	・汚泥の脱水時に、調質(高分子凝集剤添加)を適切に行うことにより、脱水効率を向上させ、外部搬出(中間処分量)の軽減を図っている。 ・生成した脱水ケーキを市内の他の終末処理場で焼却処理を行い、安定化・減容化し、産業廃棄物の発生量抑制に努めている。		
② 計画	【(令和6年度)目標】		
	産業廃棄物の種類数	6 種類	* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。
	① 排出量	182,243.7 t	
	(今後実施する予定の取組)		
	・廃棄物の発生量抑制のため、分別の徹底に努める。 ・脱水汚泥については、今後処理人口の増加が見込めるため、漸増することが想定される。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	・戸別収集ブースを設置し、廃棄物の種類ごとの分別を徹底している。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	・特になし。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度(令和 5 年度)実績】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t
	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。		
② 計画	【(令和 6 年度)目標】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t
	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度(令和 5 年度)実績】		
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t
	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。		
② 計画	【(令和 6 年度)目標】		
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t
	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和 5 年度)実績】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
・特になし。				
② 計画	【(令和 6 年度)目標】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			
・特になし。				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和 5 年度)実績】			* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑩ 全処理委託量	6,471.6	t	
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	3,714.9	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	6,471.6	t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t	
	(これまでに実施した取組)			
・新たな再生利用業者の開拓。				

		【(令和 6 年度)目標】	
② 計画	⑩ 全処理委託量	4,199.9 t	* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	2,515.0 t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,199.9 t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	
(今後実施する予定の取組)			
・新たな再生利用業者の開拓。			
※ 事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度(令和5年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和5年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和6年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

産業廃棄物処理計画書

別紙一括表

事業場名称：大清水浄化センター—

[illegible]

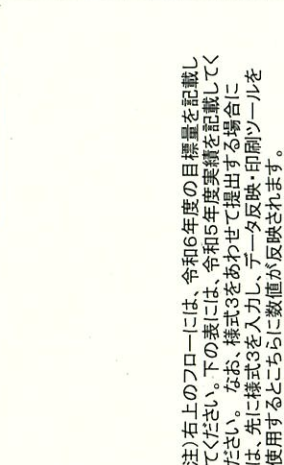
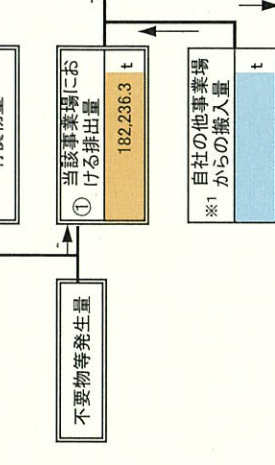
産業廃棄物処理計画書

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

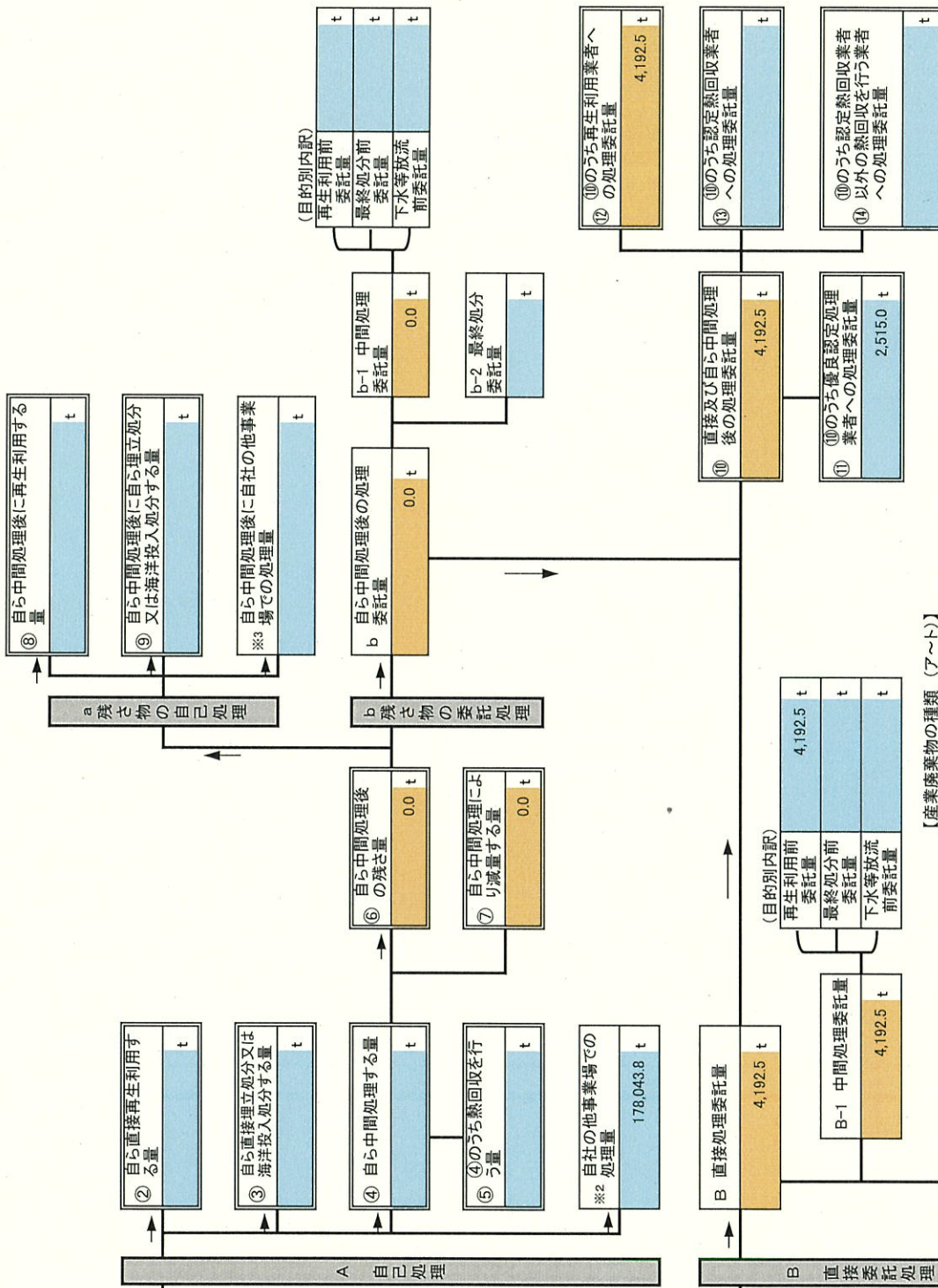
(単位:t/年)



項目	令和5年度実績
① 排出量	184,135.5 t
②+③ 自らの再生利用を行った量	0.0 t
④ 自らの熱回収を行った量	0.0 t
⑤ 自らの中間処理により減量した量	0.0 t
⑥+⑦ 自らの埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑧ 全処理委託量	6,470.7 t
⑨ 優良認定処理業者への処理委託量	3,714.9 t
⑩ 再生利用業者への処理委託量	6,470.7 t
⑪ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

注) 右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合は、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとともに数値が反映されます。

事業場名称 : 大清水浄化センター



- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 繊維くず
 - ケ. 繊維類
 - コ. 動物性廃棄物
 - サ. 動物系固形不燃物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. ぐれき類
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. はいしん
 - ト. 混合廃棄物その他

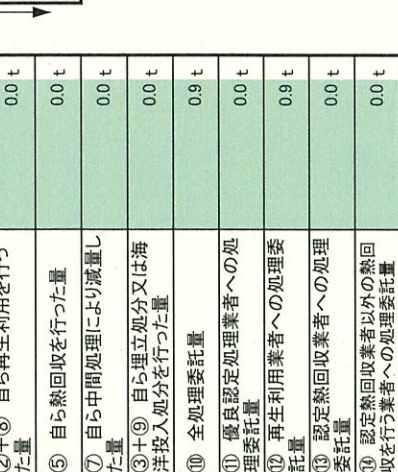
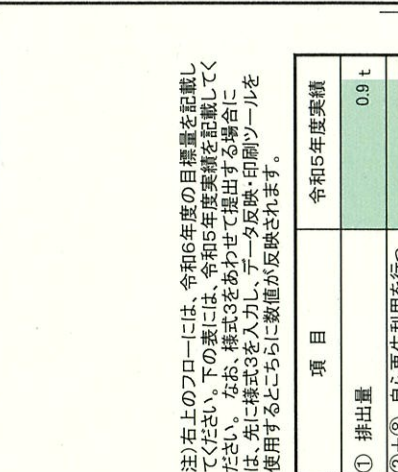
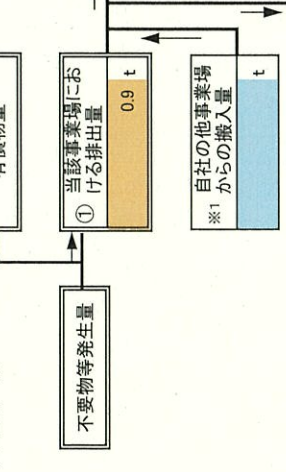
産業廃棄物処理計画書

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ウ、廃油
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

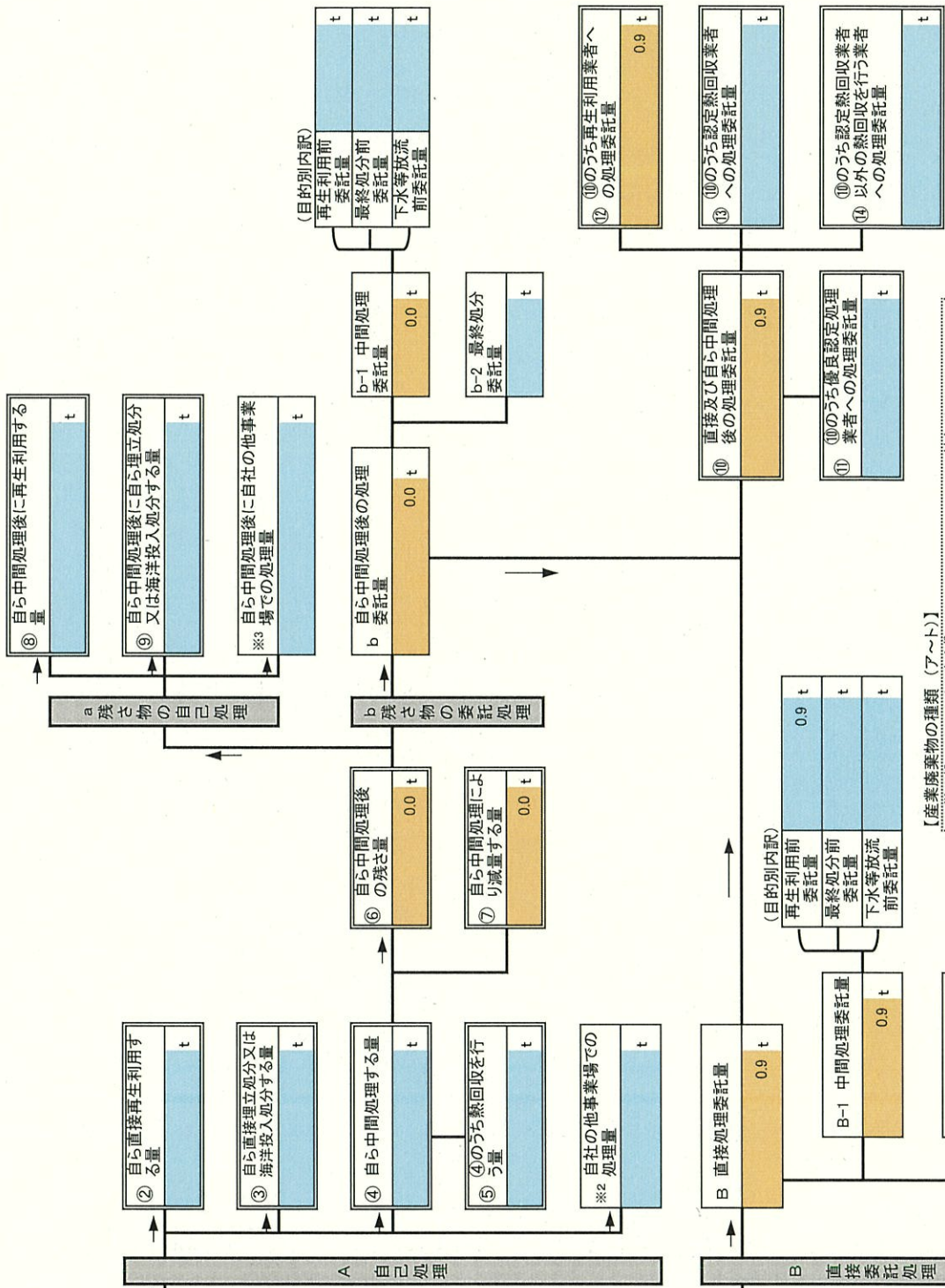
(単位: t/年)



項目	令和5年度実績
① 排出量	0.9 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.9 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

注) 右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

事業場名称 : 大清水浄化センター



- 【産業廃棄物の種類 (ア〜ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃アルカリ
 - オ. 廃プラスチック類
 - カ. 紙くず
 - キ. 繊維くず
 - ク. 金属くず
 - ケ. 機械くず
 - コ. 動植物性残さ
 - サ. 動物系固形不要物
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. 鉱さい
 - タ. ぐれき
 - チ. 動物のふん尿
 - ツ. 動物の死体
 - テ. はいしん
 - ト. 混合廃棄物その他

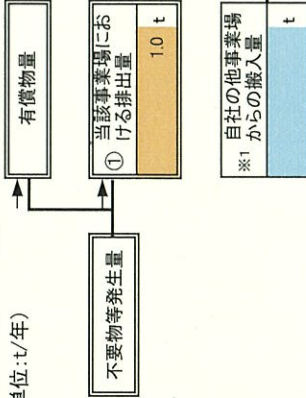
産業廃棄物処理計画書

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

【産業廃棄物の種類】
カ、廃プラスチック類
※ 本用紙は産業廃棄物の種類ごとに枚の記載となります。異なる産業廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)

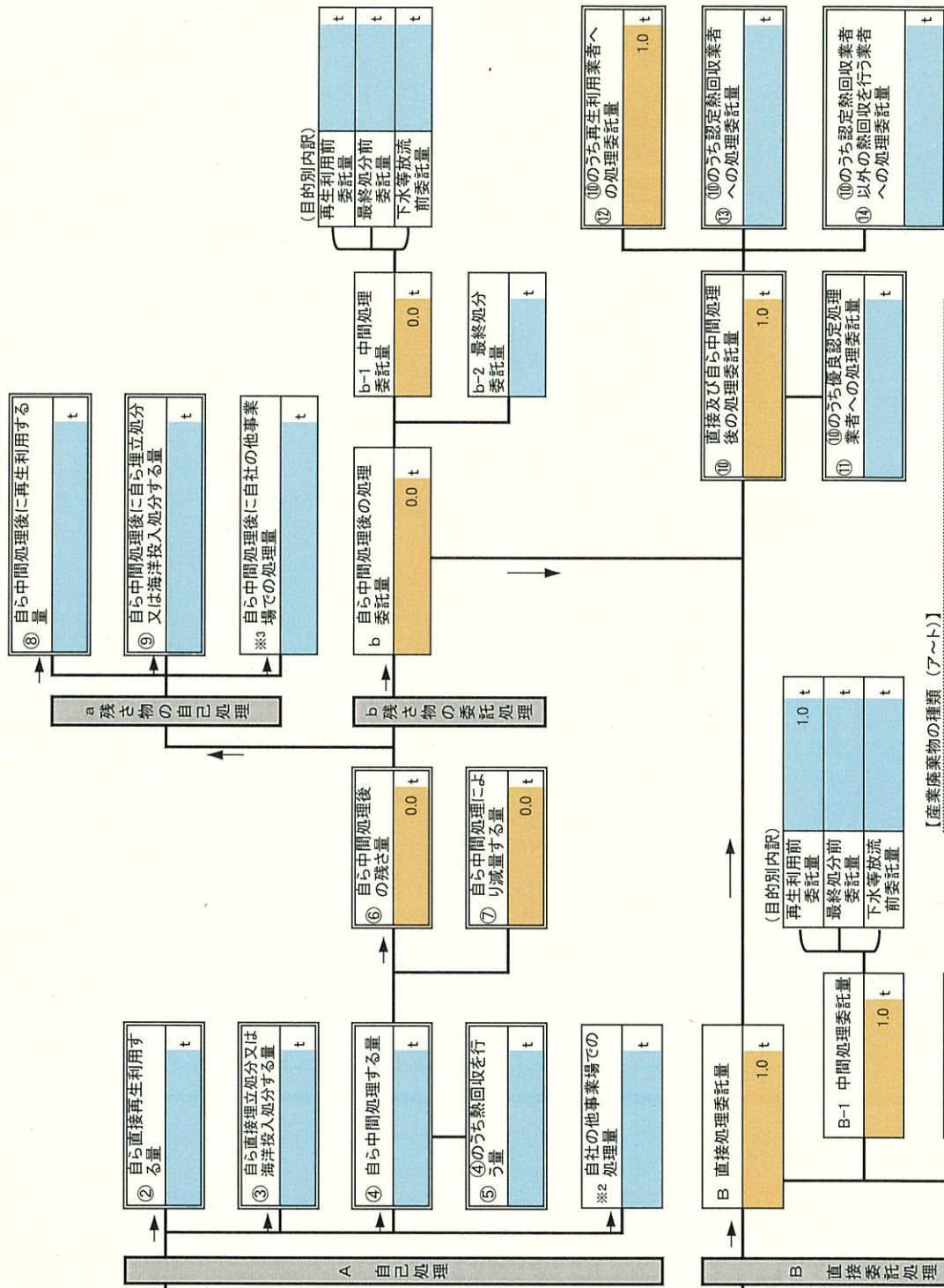


注) 右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合は、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

事業場名称 : 大清水浄化センター

2-2	法定	自主
	○	



【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

- ア. 燃え殻
- イ. 汚泥
- ウ. 廃油
- エ. 廃酸
- オ. 廃アルカリ
- カ. 廃プラスチック類
- キ. 紙くず
- ク. 木くず
- ケ. 繊維くず
- コ. 動植物性残さ
- サ. 動物系固形不要物
- シ. ゴムくず
- ス. 金属くず
- セ. ガラス・セラミックス・陶磁器くず
- ソ. 鉱さい
- タ. がれき類
- チ. 動物のふん尿
- ツ. 動物の死体
- テ. ばいじん
- ト. 混合廃棄物その他

産業廃棄物処理計画書

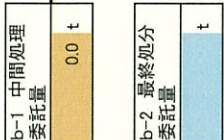
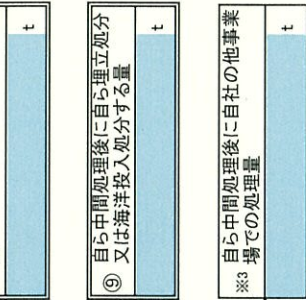
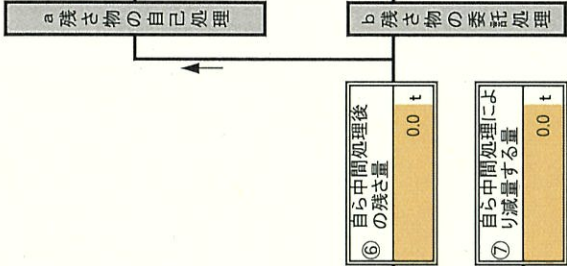
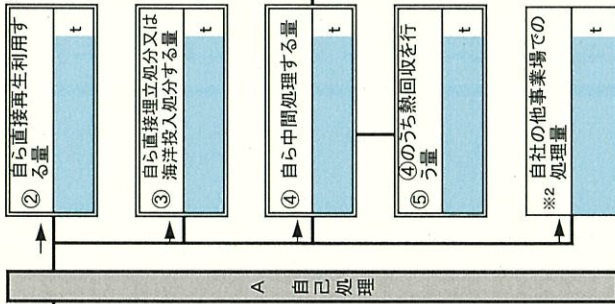
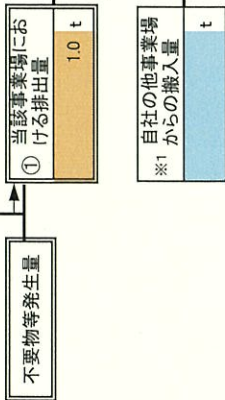
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス、金属くず
※ 本用紙は産業廃棄物の種類ごとに枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位: t/年)

有償物量



再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

注) 右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

再生利用前委託量	1.0 t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

直接及び自ら中間処理後の処理委託量	1.0 t
⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	t
⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量	t
⑩のうち認定熱回収を行う業者以外の処理委託量	t

⑩のうち再生利用業者への処理委託量	1.0 t
⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量	t
⑩のうち認定熱回収を行う業者以外の処理委託量	t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

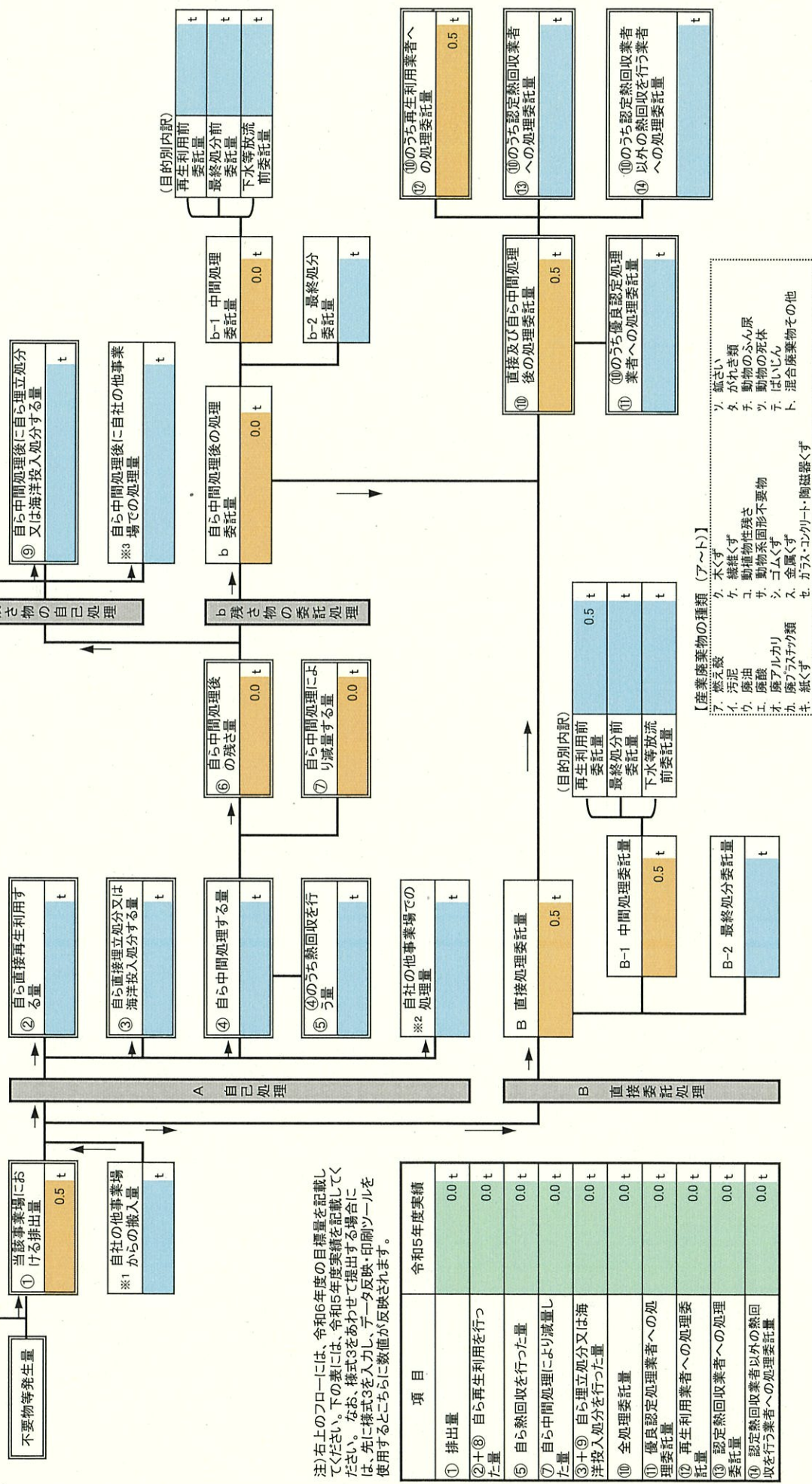
- ア. 燃え殻
- イ. 汚泥
- ウ. 汚油
- エ. 廃油
- オ. 廃アルカリ
- カ. 廃プラスチック類
- キ. 紙くず
- ク. 繊維くず
- ケ. 繊維くず
- コ. 動物性残渣
- サ. 動物系固形不要物
- シ. ゴムくず
- ス. 金属くず
- セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
- ソ. 鉱さい
- タ. がれき類
- チ. 動物のふん尿
- ツ. 動物の死体
- テ. はいじん
- ト. 混合廃棄物その他

別紙処理口—

フロアに記載した産業
廃棄物の種類

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

方價標單



注)右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

ア	燃え殻	カ	炭酸アルカリ
イ	汚泥	ク	不くず
ロ	廃油	コ	動物性残渣
エ	廃酸	ク	動植物性残渣
オ	カ	シ	動物系固形不変物
カ	廃アルカリ	サ	ゴムくず
キ	廃プラスチック類	ス	金属くず
ク	不くず	セ	ガラス類
ケ	繊維くず	ソ	紙類
コ	動物性残渣	タ	たばこ類
ク	動植物性残渣	チ	動物のふん尿
ケ	繊維くず	ツ	動物の死体
コ	動物性残渣	テ	ばいじん
ク	動植物性残渣	ト	混合廃棄物その他

事業場名称：大清水浄化センター

産業廃棄物処理計画書

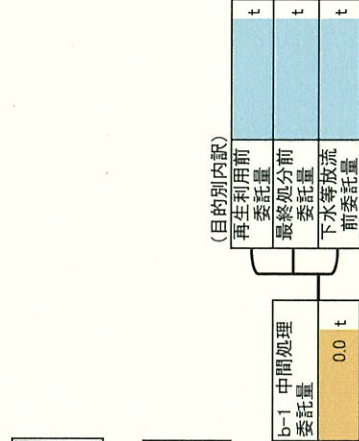
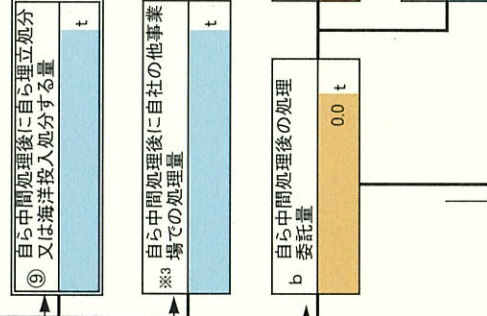
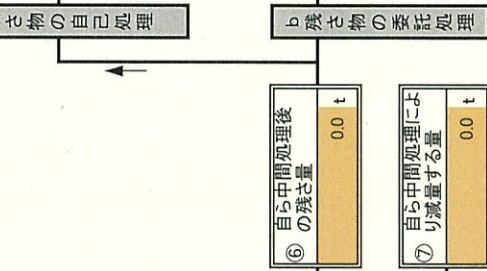
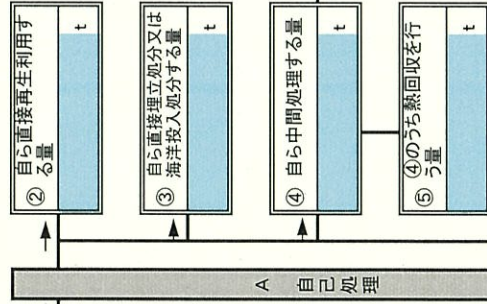
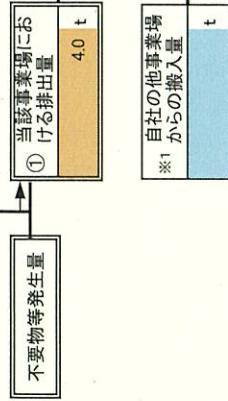
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

【フローに記載した産業廃棄物の種類】
ト、混合廃棄物その他
※ 本用紙は産業廃棄物の種類ごとに枚数の記載となります。異なる産業廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

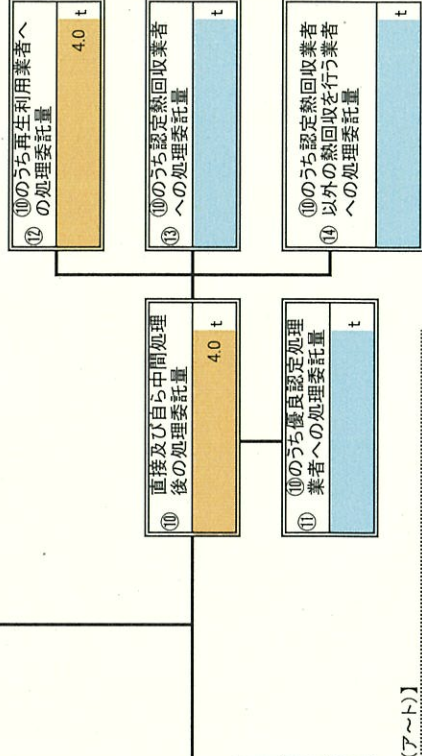
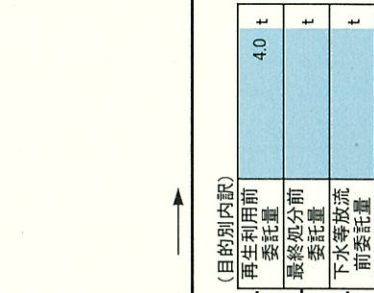
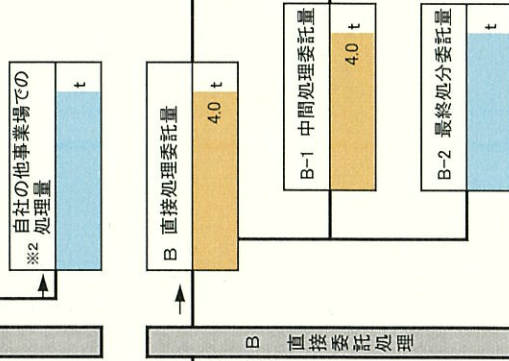
(単位: t/年)

有償物量



注) 右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合は、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t



【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

- ア、燃え殻
- イ、汚泥
- ウ、廃油
- エ、廃酸
- オ、廃アルカリ
- カ、廃プラスチック類
- キ、紙くず
- ク、木くず
- ケ、繊維くず
- コ、動植物性残さ
- サ、動物系固形不燃物
- シ、ゴムくず
- ス、金属くず
- セ、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
- ソ、鉱さい
- タ、がれき類
- チ、動物のふん尿
- ツ、動物の死体
- テ、ばいじん
- ト、混合廃棄物その他